

学内からはじまる技術相談支援のかたち ～機器分析コンシェルジュ活動報告～

○岩坂 彩子、○瀬戸 しずか
名古屋工業大学 技術部 技術課

1.はじめに

2023年4月より、学内の機器分析に関する無料相談会「機器分析コンシェルジュ」を実施している。

当初は学内限定の取り組みであったが、電頭ネットワークを通じたつながりや、学内外で機器分析コンシェルジュに関する発表を契機に、現在では学外にも展開しつつある。本発表ではその発展の経緯や、具体的な取り組み内容、今後の展望について紹介する。

2.機器分析コンシェルジュの概要

機器分析コンシェルジュとは、研究室に所属する学内の学生や教員を対象とした、機器分析に関する無料の相談会である。予約不要・対面形式で実施し、気軽に立ち寄れる場を目指して運営している。相談対応は、分析機器に携わる技術系職員全員が交代で担当している。

学内での認知度も高く、相談件数は2023年に58件、2024年は62件であった。

また、2023年10月には「機器分析コンシェルジュ web」を立ち上げた。対面開催と予定が合わない場合や、急ぎで相談したい場合にも対応できるよう、web上での問合せ窓口を整備した。

このように、機器分析コンシェルジュには、機器分析に関する学内の相談窓口として、着実に定着してきている。



図 1. 2025 年度前期のポスター



図 2. イベントの様子

3.学内工作機械部門との共同開催

2024年4月より、学内の工作機械部門である「ものづくりテクノセンター」の担当者に声を掛け、機器分析と試作・加工の両方を相談できる合同開催イベントを実施している。

イベント当日は、機器分析と試作・加工の両方に関する相談もあった。また、機器分析部門の職員からの分析装置の部品製作に関する相談もあった。

2024年度は4月・8月・10月・3月の計4回、共同開催を実施し、今年度(2025年度)も引き続き、年4回の開催を予定している。

4.近隣大学・機関との特別企画

2023 年より、中部地区の大学と企業の電子顕微鏡技術者が協力して「電子顕微鏡技術者ネットワーク(以下、電顕ネットワーク)」を構築している。

この電顕ネットワークがきっかけで、2024 年 2 月、本学にて開催した機器分析コンシェルジュにて電顕ネットワークとの特別企画が開催された。相談員として、名古屋市立大学、名古屋大学超高压電子顕微鏡施設、岐阜大学の電顕ネットワークメンバーが参加した。このイベントでは、本学では装置やノウハウが限られている生体試料の相談に特化した会を実施した。

イベント当日は生体系の相談が複数件寄せられたほか、EBSD 前処理を得意とする技術者も加わったことで、相談件数は 7 件(相談者数:10 名)と年度末としては比較的多い月となった。

本イベントを通じて、近隣大学の職員が連携し、研究の課題解決をサポートする新たな一歩を踏み出すことができたと感じている。

今年度(2025 年度)も同様の特別企画を、11 月に開催する予定である。

5.岐阜大学にて出張 機器分析コンシェルジュの開催

これまで学内で実施してきた機器分析コンシェルジュを初めて学外に展開し、岐阜大学にて出張開催を実施した。

名古屋市立大学、名古屋大学、静岡大学、名古屋工業大学の技術職員が参加、連携し、岐阜大学の共用装置利用者を対象に、機器分析に関する相談に対応した。

学内外の技術者が協力して利用者支援にあたる新たな取り組みとなった一方で、運営面の準備が不十分だった点もあり、改善の余地が残るイベントでもあった。

6.北海道大学にて開催された機器分析相談会

2024 年広島大学にて開催された機器・分析技術研究会でのポスター発表「機器分析コンシェルジュ～立ち上げから現在まで～」がきっかけとなり、北海道大学より同様の相談会を実施したいとお声がけいただき、イベントの運用や広報についての情報交換会を実施した。

その後、北海道大学でも 2025 年 5 月に「機器分析相談会」を開催し、今後は 2 カ月に 1 度の定期開催を予定しているとのことである。

本学にとっても、北海道大学の取り組みは参考となる点が多く、今後の運用に役立つ知見を得ることができた。情報交換を重ねながら、互いによりよい相談会の運営を目指して連携を深めていければと考えている。

7.今後の展望

当初は学内限定の取り組みであった機器分析コンシェルジュが、学外へと展開し、他大学や他機関との連携の動きが広がっている。

2025 年 11 月には、名古屋市工業研究所にて、電顕ネットワークと連携して、初めて中小企業を対象とした出張機器分析コンシェルジュの開催も計画している。

一方で、学内イベントとしての役割も依然として重要であり、特に学内利用者への支援を最優先に据える必要がある。学内イベントを丁寧に積み重ね、相談しやすい環境をさらに充実させていくことが、結果として学外との連携や学外への発信力の強化にもつながると考えている。

謝辞

機器分析コンシェルジュの開催を後押しして協力してくださった産学官金連携機構設備共用部門の先生方、電頭ネットワークの皆様、北海道大学 横平様はじめ技術職員の皆様、本学技術系職員の皆様に感謝申し上げます。最後に、本報告の場を提供してくださった埼玉大学の方々に感謝申し上げます。